

主催：学習院大学身体表象文化学会

学習院大学身体表象文化学会**2019**年度第**2**回例会

第7回ゾンビ映画研究会



研究対象：『チャイルド・プレイ (**Child's Play**)』
(トム・ホランド監督、**1988**年、米、**87**分)

【概要】

ともに「人のかたち」をこそ保ってはいるが、死体も人形も、本来、生命とは無縁の、動くはずのないモノである。ところが銀幕上で、それらは息づき蠢いている（ように見える）。

恐怖映画のなかで最も有名な「動く」人形といえば**チャッキー**であろう。そのチャッキーを主人公とする「**チャイルド・プレイ**」シリーズ（1988年～）は、ブドゥーの秘術に通じた連続殺人鬼が自らの魂を（大量生産品としての）チャッキー人形に籠めるところから始まる。他方、ゾンビ映画においても、最初に死体を蘇らせ歩かせたのはハイチのブドゥー魔術師であった。この看過できない共通項を手掛かりとして、（恐怖映画史上における）「**ゾンビと人形**」の関係について考える。

シリーズ第1作を鑑賞後、作品に関する理解を深めるために、会員の岡田尚文氏（表象文化論・映画史）と関根麻里恵氏（表象文化論・ジェンダー論）に解説をいただき、その後、参加者全員で議論することとしたい。

開催日時：**2020**年**1**月**11**日(土) **14:00~18:30**

会場：学習院大学南 **1**号館 **301** 教室

入場無料・予約不要

詳細はQRコードからご確認ください

